

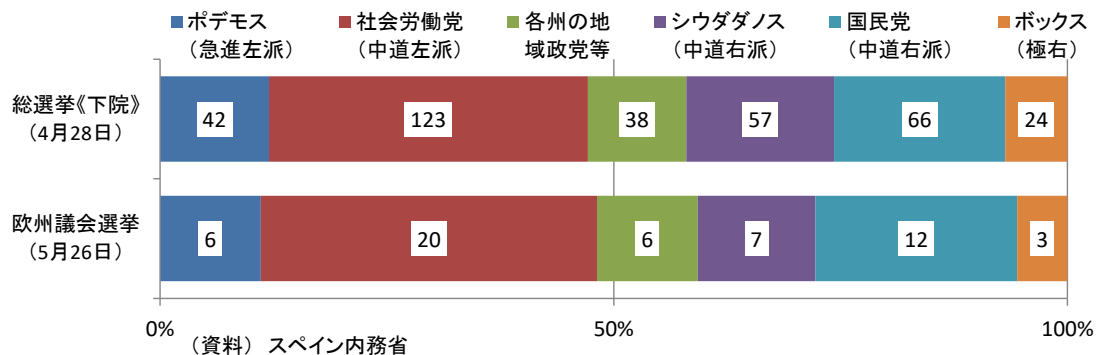
## 新政権が立ち上がらない状況の続くスペイン ～11月10日に再び総選挙を行う可能性も～

経済調査部 主任研究員 矢口 満  
[mitsuru\\_yaguchi@iima.or.jp](mailto:mitsuru_yaguchi@iima.or.jp)

### はじめに

スペインでは本年4月28日に下院解散に伴う総選挙が行われ、少数与党であった社会労働党（中道左派）が最多の123議席を獲得したが、依然として下院定数（350議席）の過半数を占めるに至らなかった（図表1）。その後、同党はボックス（極右）を除く各政党と連立政権や閣外協力に関して協議してきたが、3ヵ月半が経過した今日でも次期首相候補が信任されず、新政権の立ち上げられない状況が続いている。そこで、こうしたスペインの政局の現状と今後のポイントについて簡潔にまとめた。

図表1：スペインの総選挙および欧州議会選挙の結果（議席数）

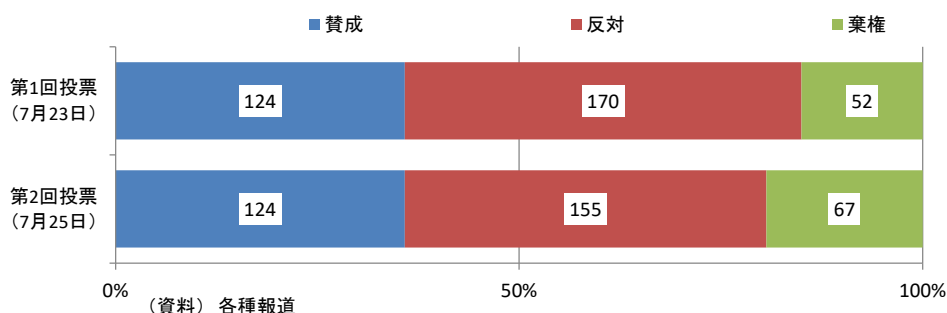


### 次期首相候補としてのサンチェス氏に対する信任投票の結果

4月28日の総選挙で最多議席を得た社会労働党は、当然ながらサンチェス党首（現首相）が次期首相として続投することを望んでいる。しかし、次期首相候補としてのサンチェス氏に対する下院の第1回信任投票（7月23日）では、賛成が124票と下院定数の過半数（176）に達せず、首相信任は不成立に終わった。その2日後に行われた第2回信任投票では、賛成票が反対票を上回りさえすれば信任が成立する規定であるが、結局、賛成124票に対して反対155票となり、再び不成立に終わった（図表2）。

スペインの法規では、第1回投票から2ヵ月以内にサンチェス氏ないし他の首相候補が信任されなければ下院は自動的に解散となり、総選挙が11月10日に行われる。こうしたなかでサンチェス氏は、解散期限となる9月23日まで政権協議を諦めない方針を示している。

図表 2：次期首相候補としてのサンチェス氏に対する信任投票の結果（票数）



### 社会労働党がシウダダノスから閣外協力を得る上での障害

社会労働党が第2回投票にて賛成票を上積みできなかったのは、ポデモス（急進左派）との連立協議が決裂したためであった（ポデモスは第1回投票と同様に「棄権」した）。これはポデモスから予想外に多くの閣僚ポストの要求があり<sup>1</sup>、社会労働党がそれを受け入れられなかったからである。こうしたなか、第3回投票（日程未定）において反対票を賛成票より抑えるには、（ポデモスは引き続き「棄権」と想定されるので）新興政党のシウダダノス（中道右派）に閣外協力を依頼し、同党に「反対」から「棄権」に回ってもらう必要がある<sup>2</sup>。

ここでネックなのが、シウダダノスがカタルーニャ州の独立や自治権拡大に対し、党是として強硬に反対していることである。社会労働党はこの党是をある程度受容しない限り、シウダダノスから閣外協力を得ることを望めない。一方で、社会労働党は昨年6月に政権を獲得して以降、前・国民党政権と異なり、独立志向のカタルーニャ州政府に対して対話路線を採ってきた。すなわち、独立問題の政治的解決に向けて、同州政府（特に独立推進派の地域政党）を対話の場にとどめる戦略を採り、自治権拡大や財政面での支援などを提案してきた。シウダダノスの閣外協力を得るためには、こうした対話路線を、一時的にせよ取りやめなければならない。その結果、仮にカタルーニャ州の独立問題が再燃すれば、その沈静化に多大な政治的労力が必要となる。

### 今秋に再び解散・総選挙が行われる場合のシナリオ

今後、社会労働党がシウダダノスから閣外協力を得られなければ、上述のように、再度の解散・総選挙に突入する。5月26日の欧州議会選挙の結果（前掲図表1）や、その後の世論調査の傾向をみると、社会労働党が引き続き第1党となり、獲得議席数も上積みできるという見方が多い。ただし、4月28日の総選挙では、台頭しつつある極右政党ボックスへの警戒心から社会労働党の支持者層の投票率が高まったが、11月10日も同様に高まるとは限らないとの見方もある<sup>3</sup>。このため社会労働党としては、可能な限り再度の解散・総選挙を回避することを基本スタンスとしている。

<sup>1</sup> 社会労働党は副首相（社会政策担当）、厚生相、住宅相、平等相の4ポストを提示したが、ポデモス側は更に労働相も含めた5ポストを要請し、双方の折り合いが付かなくなった（2019年7月25日付け The Economist 電子版の記事“Pedro Sanchez fails to form a coalition in Spain”参照）。

<sup>2</sup> なお、国民党（中道右派）については、昨年6月に社会労働党が国民党から政権を奪取した経緯に鑑みると、何らかの取引をしても「棄権」に回る可能性は極めて低い。

<sup>3</sup> 2019年7月25日付け The Economist 電子版の記事“Pedro Sanchez fails to form a coalition in Spain”参照。

なお、仮に社会労働党が11月10日の総選挙で大勝しても、下院定数の単独過半数を確保することまでは考えにくく、選挙以降、他党との政権協議は必須となる。そのプロセスには数週間～数ヵ月を要しよう。スペインでは、GDP比100%近い公的債務残高の大きさに鑑み、本格的な財政引き締めに着手することが求められるが、そうした政策的課題へ着手は、当面先送りせざるを得なくなる。

## おわりに

スペインを含めて欧州各国では、夏季のバカンスシーズンである8月中は、重要事項であっても各種議論がほとんど進まない。社会労働党とシウダダノスや他党との政権協議が実質的に再開されるのは、9月初め頃となろう。9月23日までに次期首相候補を信任できるような各党の協力体制が整うのか否か、今後の注目がされる。

以 上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2019 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-Chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <https://www.iima.or.jp>